2005 年 3 月期中間決算説明会要旨（11 月 25 日）　双日ホールディングス株式会社

【双日ホールディングスの 2005 年 3 月期中間決算概要について】

前事業計画（2003 年 4 月～2006 年 3 月）を見直し、「財務体質の抜本的強化」と「良質な収益構造への変革」を基本方針とした新事業計画（2004 年 4 月～2007 年 3 月）を 9 月 8 日に発表した双日ホールディングスの今中間期決算は、財務体質の抜本的強化をはかるべく資産健全化処理を進めた結果、特別損益 2,453 億円の損失を計上し、中間純損失は前年同期比 2,236 億円減益の 2,411 億円となりました。

尚、当中間決算の概要は次の通りです。

当中間連結会計期間の連結売上高は、低採算取引を見直した結果、2 兆 2,542 億円と、前年同期比 25.4%の減収となりました。連結利益につきましては、売上総利益は、建設都市開発部門でマンション販売が減少したことに加え、機械・宇宙航空部門で事業構造改善に伴い連結子会社を売却・整理したことなどにより、前年同期比 2.1%減益の 1,197 億円となりました。営業利益は、営業部門での売上総利益の減少があったものの、販売費及び一般管理費が合理化効果などにより 868 億円と前年同期比 89 億円改善し、前年同期不調であった海外現地法人の改善もあり、329 億円と前年同期比 23.8%の増益となりました。経常利益は、㈱メタルワンなどの持分法投資損益の改善などにより前年同期比 35.1%増益の 258 億円となりました。特別損益につきましては、特別利益として投資有価証券等売却益 33 億円など合計 50 億円を計上し、他方、特別損失として、「新事業計画」にそって、海外投融資を含む低採算事業の見直しを行い、事業構造改善損１,814 億円、関係会社整理・引当損等 462 億円、投資有価証券等評価損 130 億円、投資有価証券売却損 89 億円など合計 2,503 億円を計上した結果、特別損益は 2,453 億円の損失となりました。この結果、税金等調整前中間純損失は 2,195 億円となり、法人税、住民税及び事業税 56 億円、繰延税金資産の減額などによる法人税等調整額 139 億円を計上し、少数株主利益 21 億円を控除した後の中間純損失は 2,411 億円となりました。

以上のとおり、新事業計画に基き資産健全化処理を実施した結果、約 2,500 億円の特別損失を計上しましたが、営業面については 9 月 8 日に公表した通期業績予想に対して、売上高で 45%、営業利益、経常利益については共に 52%の進捗率を示しており、総じて順調な結果となりました。

【新事業計画の進捗状況】

双日ホールディングスは新事業計画の基本方針である「財務体質の抜本的強化」ならびに「良質な収益構造への変革」に沿って、計画達成に向けて着実なスタートを切りました。

◇財務体質の抜本的強化

① 資産健全化処理の進捗状況および今後の予定

「財務体質の抜本的強化」については、事業リスクの低減、資産の質・流動性の向上の観点から資産内容を抜本的に見直す資産健全化処理を実施していきます。これは将来の二次損失を防ぐべく、最終処理もしくは最終処理と同等の手当てを行い、資産の質を一気に向上させるとともに資金回収の最大化を目指していくものです。

具体的には 3 兆円の資産を全て見直し、将来的にリスクの発生が考えられるものを処理し、海外投融資を含む低採算事業からの撤退ならびに保有不動産などの処分を行います。この処理にあたっては、今期中に実施し、将来への懸念を一掃。結果、約 6,000 億円の資産圧縮と 4,000 億円規模の損失処理を行い、1,500 億円の資金を創出していきます。

上半期に実施した資産健全化処理は、資産圧縮については「選択と集中」の加速によるものが約 3,000 億円、不動産が約 200 億円で合計 3,200 億円となり、それに伴う損失は、それぞれ 2,370 億円、130 億円の合計 2,500 億円でした。

資産健全化処理は引き続き下半期も実施し、2005 年 3 月末には、前述の通り、約 6,000 億円の資産圧縮を完了する見込みです。

② 株主資本の充実と有利子負債の削減について

「財務体質の抜本的強化」については、更に、増資による株主資本の充実と有利子負債の削減を実施していきます。

具体的には、前述に示した約 6,000 億円の資産圧縮に伴い発生する 4,000 億円規模の損失に伴い減少する株主資本を回復させるとともに、有利子負債の削減を行うため、10 月末に 3,700 億円のエクイティ・ファイナンスを実施し、同時に借入金の返済を行いました。その結果、株主資本比率及び DER は大幅に改善し、バランスシートの健全化とクレジットの向上を図りました。尚、2005 年 3 月末の NET DER は約 3 倍台を予定しています。

◇良質な収益構造への変革

双日ホールディングスは上半期、選択・低採算事業から撤退する一方、競争優位を持つ事業へ注力し、収益力強化に向けて約 330 億円の新規投融資を実行しました。また、下半期は、足元の収益確保はもとより、将来への収益源への種まきとして、リスク・リターンが見合う優良案件に的を絞り、500～600 億円の新規投融資を計画していきます。

SCVA 経営についても引き続きグループ内に浸透を図るために、また、2005 年度にはシステム化を果たしリスクアセットを導入すると共に、各現場での細かな KPI 運用に向けてインフラの充実化にピッチを上げて進めていきます。

更には、抜本的に見直した資産の質を悪化させず、維持・向上していくために、また、収益構造改革により生み出された収益を減少させないため、リスク管理を一層強化・高度化していきます。

【双日ホールディングスの 2005 年 3 月期連結業績見通しについて】

双日ホールディングスの下半期は、上半期に引き続き、各事業セグメントのいずれもが概ね順調に進捗し、結果、財務目標のひとつである経常利益は 500 億円を達成する見通しです。

また、バランシートについては、株主資本が 2,900 億円、ネット有利子負債は 11,100 億円を予定しており、結果としてネット DER は 3.8 倍となる見込みです。

尚、本件に関する詳細については、双日ホールディングス株式会社　ホームページ（http://www.sojitz-holdings.com）　IR 投資家情報をご覧下さい。

2005年3月期中間決算説明会

～ 決算概要と新事業計画の進捗状況 ～

双日ホールディングス株式会社

2004年11月25日

sojitz

グループの経営ビジョン

- ◆ 個々の中核事業領域において、収益性・成長性の向上を絶えず追求することにより、それぞれの業界・市場においてトップクラスの競争力と収益力を持つ「事業の複合体」を目指す

- ◆ 環境の変化や市場のグローバル化に対して素早く挑戦し、起業を通じ、常に新しい事業領域の開拓に努める「革新的な商社」を目指す

- ◆ 多様な顧客のニーズを掘り起こし、ビジネスパートナーとして深化したサービスを提供できる「機能型商社」を目指す

- ◆ 社員一人一人に自己実現に挑戦する機会を与える「開かれた事業体」を目指す

目次

I. 2005年3月期 中間決算概要 ・・・ P. 3 - 5

◆ 新事業計画の進捗状況 ・・・ P. 6 - 20

- 新事業計画の基本方針
- 財務体質の抜本的強化
- 良質な収益構造への変革
- 財務目標

将来見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確実な要素を含んだものとご理解下さい。

I. 2005年3月期 中間決算概要

2005年3月期 中間決算概要（主なP/L項目）

◆ 主なP/L項目

	03/9期実績	04/9期実績	増減	05/3期見通し	進捗率
売上高	30,220億円	22,542億円	△7,678億円	50,000億円	45%
売上総利益 （売上総利益率）	1,223億円 （4.05%）	1,197億円 （5.31%）	△26億円 （＋1.26%）	2,500億円 （5.00%）	48%
営業利益	266億円	329億円	＋63億円	630億円	52%
経常利益	191億円	258億円	＋67億円	500億円	52%
当期純利益	△175億円	△2,411億円	△2,236億円	△3,800億円	―

通期見通しに対して営業利益、経常利益ともに52%の進捗率と営業面は順調な成績

2005年3月期 中間決算概要（主なB/S項目）

◆ 主なB/S項目

	04/4/1 ※1	04/9末	現状 ※2	05/3末見通し
総資産	30,777億円	27,040億円	―	24,400億円
株主資本	2,905億円	617億円	4,200億円	2,900億円
ネット有利子負債	15,571億円	15,652億円	12,150億円	11,100億円
ネットDER	5.4倍	25.4倍	2.9倍	3.8倍

※1 04/4/1･･･ 旧ニチメンと旧日商岩井の合併処理を反映させた参考数値
※2 現状 ･･･ 04/9末実績に、10/29実行の資本増強（3,600億円）および有利子負債返済（3,500億円）を考慮したもの

エクイティ･ファイナンスおよび有利子負債削減、ならびに資産健全化処理も順調に進捗

II. 新事業計画の進捗状況

新事業計画の基本方針

◆ 目的：「市場の信認の早期回復」を通じて、企業価値の向上を図る
外部環境に左右されない強固な経営基盤を早期に確立し、双日グループならではの高付加価値を提供する「革新的な機能型商社」としての地位を確立

◆ 基本方針

『財務体質の抜本的強化』

・資産内容の抜本的見直し（事業リスクの低減、資産の質・流動性の向上）
・増資による株主資本の充実（資産内容の抜本的見直しにより減少する株主資本を回復）と有利子負債の削減

『良質な収益構造への変革』

・選択と集中の加速
　- 選択・低採算事業から撤退し、競争優位を持つ事業へ注力
・SCVA（リスク・リターン指標）の向上（事業ポートフォリオ最適化）
　- 継続的な「ポートフォリオ管理」と「リスク管理の強化・高度化」

3年後（07/3）の財務目標

・経常利益：750億円
・ネットDER：3倍程度
　- ネット有利子負債：1兆円水準
・格付け：BBB以上

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理－計画と処理実績）

将来の二次損失発生を防ぐべく、最終処理もしくは最終処理と同等の手当てを行い、
資産の質を一気に向上させるとともに資金回収の最大化を目指す

◆ 計画

「選択と集中」の加速

資産圧縮　3,500億円程度
損失処理　2,600億円程度

※ Going Concern（継続前提）ベースから大胆に撤退

◆ 9月末までの処理実績

資産圧縮　2,977億円、損失額　2,369億円
～一部を除き損失処理は概ね終了～

- 実損（上期に売却・撤退完了）
  資産圧縮 952億円、 損失額 687億円
- 引当（下期に売却・撤退予定）
  資産圧縮 1,577億円、 損失額 1,234億円
- 引当（来期以降オフバランス）
  資産圧縮 448億円、 損失 448億円
- 未処理（下期に処理予定）
  資産圧縮 523億円

◆ 計画

保有不動産の処分等

資産圧縮　2,500億円程度
損失処理　1,500億円程度

※ 旧本社ビルほか保有不動産の処分

◆ 9月末までの処理実績

資産圧縮　216億円、損失額　133億円
～一括売却と個別売却に分けて下期に売却予定～

- 実損（上期に売却完了）
  資産圧縮 216億円、 損失額 133億円
- 未処理（下期に売却予定）
  資産圧縮 2,284億円

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理−2004年9月末実績）

2004年9月末実績

（単位：億円）	計画値		処理済						未処理	
			実損(売却･撤退)		引当 (売却･撤退予定)		引当 (来期以降ｵﾌﾊﾞﾗﾝｽ)			
	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額
選択と集中の加速	3,500	2,600	952	687	1,577	1,234	448	448	523	231
保有不動産の処分等	2,500	1,500	216	133					2,284	1,367
合計	6,000	4,100	1,168	820	1,577	1,234	448	448	2,807	1,598

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理−2004年10月末実績）

2004年10月末実績

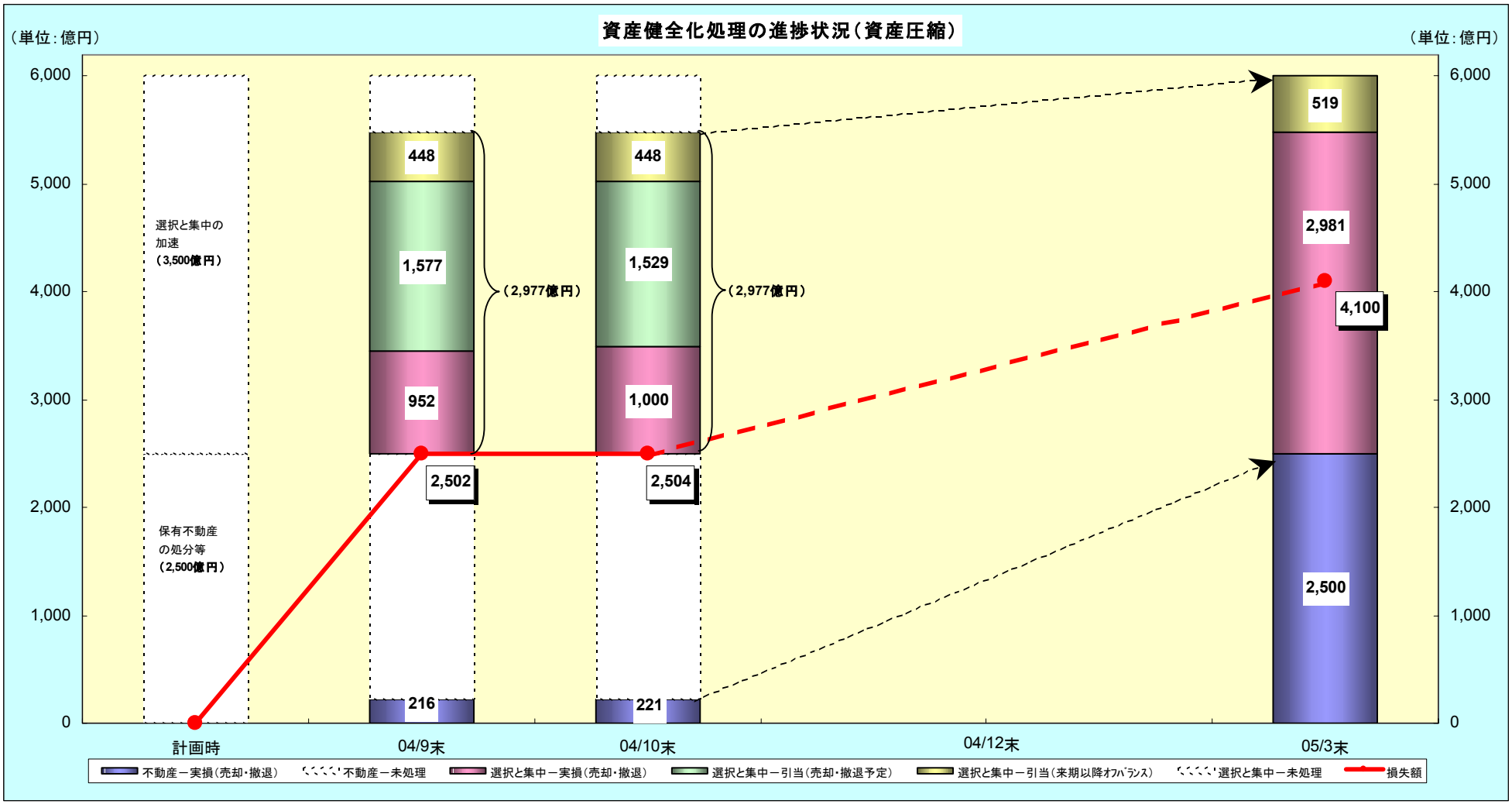
（単位：億円）	計画値		処理済						未処理	
			実損(売却･撤退)		引当(売却・撤退予定)		引当(来期以降ｵﾌﾊﾞﾗﾝｽ)			
	資産圧縮額	損失額	資産圧縮額	損失額	資産圧縮額	損失額	資産圧縮額	損失額	資産圧縮額	損失額
選択と集中の加速	3,500	2,600	1,000	717	1,529	1,204	448	448	523	231
保有不動産の処分等	2,500	1,500	221	135					2,279	1,365
合計	6,000	4,100	1,221	852	1,529	1,204	448	448	2,802	1,596

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理−2005年3月末計画）

2005年3月末計画

（単位：億円）	計画値		処理済						未処理	
			実損(売却･撤退)		引当 (売却･撤退予定)		引当 (来期以降ｵﾌﾊﾞﾗﾝｽ)			
	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額	資産 圧縮額	損失額
選択と集中の加速	3,500	2,600	2,981	2,081	0	0	519	519	0	0
保有不動産の処分等	2,500	1,500	2,500	1,500					0	0
合計	6,000	4,100	5,481	3,581	0	0	519	519	0	0

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理ー進捗状況）



財務体質の抜本的強化（資産健全化処理－具体的処理内容）

【9月末時点での具体的処理内容】

◆ 選択と集中の加速によるもの

○ 実損（上期に売却・撤退完了）
資産圧縮額 952億円、損失額 687億円
- 通信関連株式売却
- 海外自動車ファイナンス子会社からの撤退
- 国内家電・健康器具卸売事業会社からの撤退
- 国内自動車販売事業からの撤退
- 低採算の海外金属資源事業からの撤退

○ 引当（下期に売却・撤退を予定）
資産圧縮額 1,577億円、損失額 1,234億円
- 航空機ファイナンス事業からの撤退
- 低採算の海外自動車ビジネスからの撤退
- 中南米民間医療機案件
- 海外建設機械子会社からの撤退
- 海外通信事業からの撤退
- 国内訴訟案件和解
（→ 既に和解済みで10月に初回入金）
- 海外オフィスビル事業からの撤退
（→ 10月に売却完了）

○ 引当（来期以降オフバランス）
資産圧縮額 448億円、損失額 448億円
- 国内外の訴訟案件等で法的な制限があるもの
- カントリーリスク債権に対する引当強化
- 低採算の海外石化製品事業会社からの撤退

○ 未処理
- 大型機など低採算の航空機オペレーティングリース事業からの撤退
- 国内不動産関連融資
- 費用処理関係

◆ 保有不動産の処分等によるもの

○ 実損（上期に売却完了）
資産圧縮額 216億円、損失額 133億円

財務体質の抜本的強化（資産健全化処理−今後の処理予定）

【今後の処理予定】

◆ 選択と集中の加速によるもの

- 将来の二次損失発生を防ぐべく、最終処理もしくは最終処理と同等の手当てを行うとともに、資金回収の最大化を目指す

◆ 保有不動産の処分等

（現在の売却交渉状況）

- 一括売却案件　～ 数十億円規模以下の案件を一括して売却交渉 ～

- 個別売却案件　～ 両本社ビル等の売却を個別に投資家に打診中 ～

財務体質の抜本的強化（株主資本の充実と有利子負債の削減）

4,000億円規模の処理に伴い減少する株主資本を回復するとともに、
有利子負債の削減を行うために、3,700億円のエクイティ・ファイナンスを実施

＜エクイティ・ファイナンスの概要＞

金額	3,700億円
方法	第三者割当による - 優先株式の発行（3,600億円） - 転換社債型新株予約権付社債の発行（100億円）
払込日	2004年10月29日
引受先	優先株式 - UFJ、みずほｺｰﾎﾟﾚｰﾄ、東京三菱、UBSｸﾞﾙｰﾌﾟ 転換社債型新株予約権付社債 - UBSｸﾞﾙｰﾌﾟ

＜有利子負債の削減＞

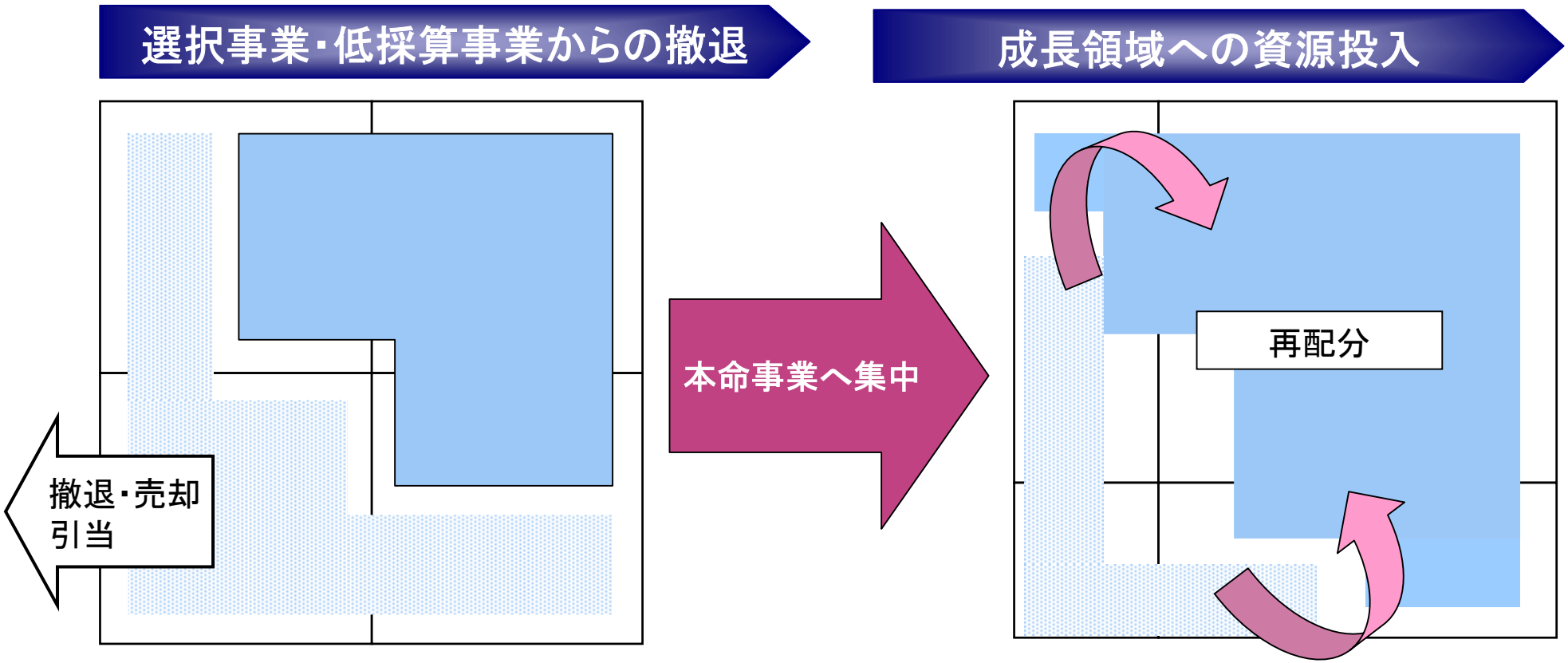
主要金融機関3行引受分の優先株式3,500億円（UFJ 3,300億円、みずほｺｰﾎﾟﾚｰﾄ 100億円、東京三菱 100億円）については、デット・エクイティ・スワップ（DES）を実施し、借入金の削減に充当

株主資本比率及びDERを大幅に改善し、バランスシートの健全性とクレジットの向上を担保

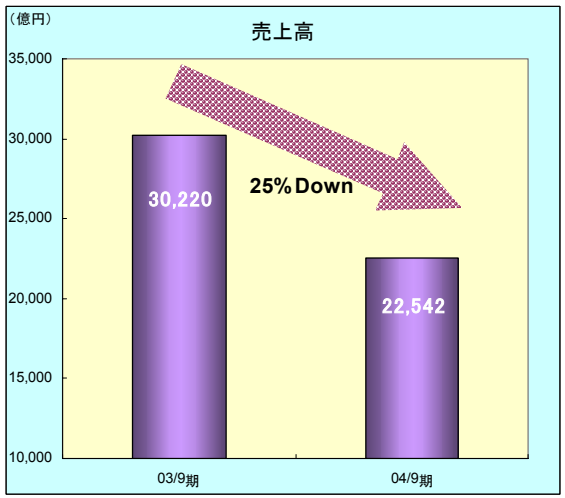
良質な収益構造への変革（選択と集中の加速ー基本的な考え方）

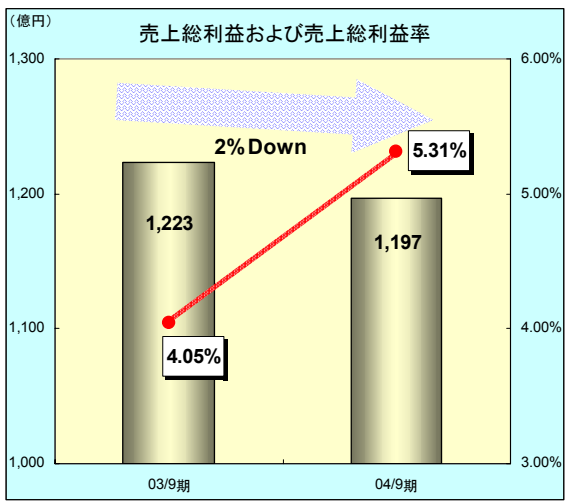
SCVA経営に基づく個々の商権レベルでの精査を行い、双日グループが「強み」を持つ事業に集中し、商品部門にとらわれない、良質な収益構造への変革を目指す

◆ 基本的な考え方



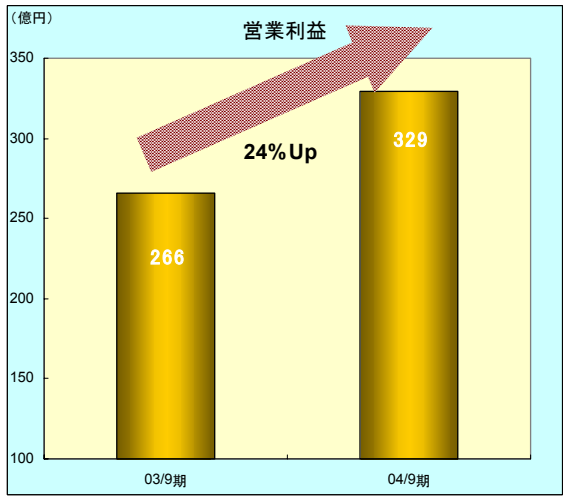
良質な収益構造への変革（収益構造変革の成果）

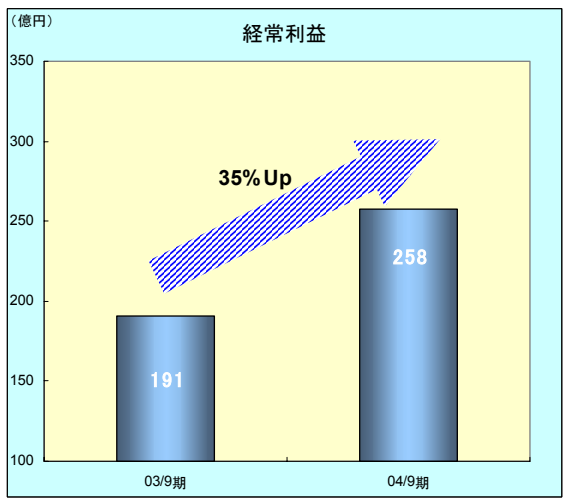




・売上総利益率は改善

・販管費、持分法損益の改善などで、営業利益および経常利益は増加





収益構造変革の成果が徐々に現れつつある

良質な収益構造への変革（新規投融資）

経営資源の投入は、総花的に行うのではなく、当社グループが明確な強みを発揮し
競争優位を確立できる成長領域に限定し、効率性を追求する

上半期

投融資実績　約330億円

- IT関連事業(日商エレクトロニクス㈱)
- 石油権益投資（英国領北海）
- 婦人衣料品（シンガポール㈱）
- 商業施設開発投資（柏SC）
- 自動車リテール事業（中国）

下半期

足元の収益確保はもとより、将来の収益源への種まきとして、リスク・リターンが見合う優良案件に的を絞り、500～600億円の新規投融資を計画

（既実行案件）
- ガス権益投資（米メキシコ湾）
- 炭鉱権益投資（豪州・クィーンズランド州）
- 綿織物事業（中国・山東省）

良質な収益構造への変革（経営管理体制の確立）

SCVA経営

◆「SCVA経営」の推進

- SCVA専任組織を設置（'04/ 4/ 1）

・国内外関係会社を含めた
グループ統一基準へ

・SCVAの高度化推進

・システム構築等のインフラを充実

リスク管理の強化・高度化

◆ リスク管理企画室を新設（'04/10/ 1）

- 多岐に亘る業務の横断的なリスク管理諸施策の立案・企画機能を強化
- リスク管理担当役員を専任とし独立性を確保

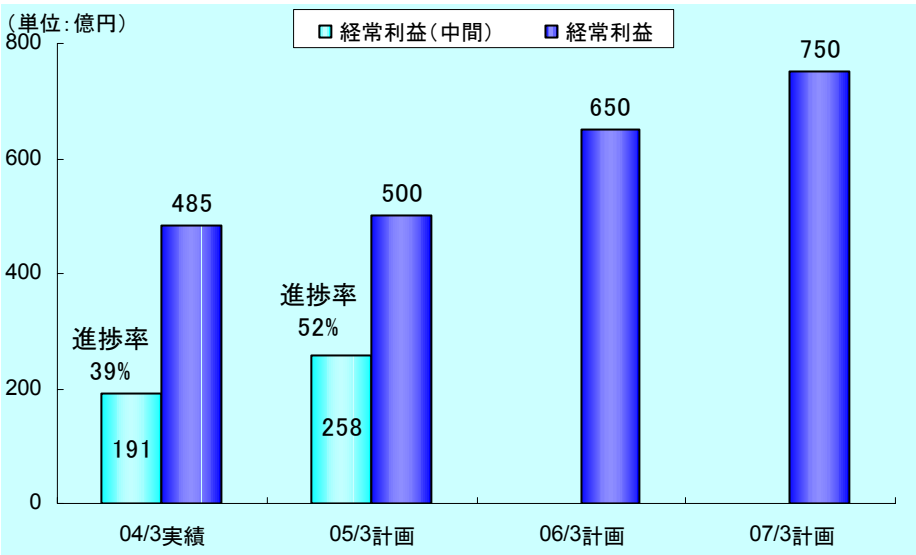
◆ 強化・高度化のための諸施策

- 社内格付システムの高度化
- モニタリング等事後管理システムの充実化
- ポートフォリオ管理の高度化

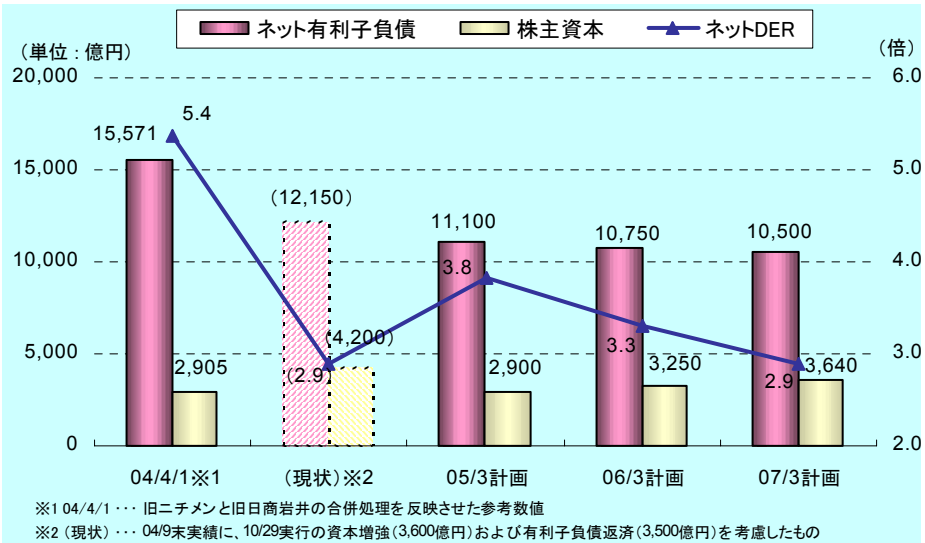
**リスクをミニマイズする仕組みを確立するとともに、
大胆な事業ポートフォリオの再構築を行い、リスク・リターンの極大化を図る**

財務目標（進捗状況）

経常利益 ： 750億円



ネットDER ： 3倍程度
（ネット有利子負債 1兆円水準）



※ フォローアップ委員会を設置（2004年10月1日）

- 新事業計画の執行部隊である双日㈱の社長を委員長とし、新事業計画の進捗状況管理と、主要関係先に対し報告を行う
- 透明性を確保するためアドバイザーとして外部専門家を起用し、第三者の目を通した進捗状況のモニタリングを行う

2005年3月期中間決算説明会

～　中間期実績と通期見通し ～

双日ホールディングス株式会社

2004年11月25日

目次

I.　2005年3月期中間決算実績　・・・　P. 2 - 6

II.　2005年3月期通期決算見通し　・・・　P. 7 - 9

将来見通しに関する注意事項
資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確実な要素を含んだものとご理解下さい。

2005年3月期中間決算実績

（単位：億円）	**04/9期実績**	03/9期実績	前年同期比増減	05/3期見通し（9/8 公表）	進捗率
売上高	**22,542**	30,220	△ 7,678	50,000	45%
売上総利益	**1,197**	1,223	△26	2,500	48%
販売管理費	**△868**	△ 957	+89	△ 1,870	46%
営業利益	**329**	266	+63	630	52%
営業外損益	**△71**	△ 75	+ 4	△ 130	
経常利益	**258**	191	+ 67	500	52%
特別損益	**△2,453**	△ 331	△2,122	△ 4,100	
税引前当期純利益	**△2,195**	△ 140	△2,055	△ 3,600	
当期純利益	**△2,411**	△ 175	△2,236	△ 3,800	

売上総利益実績（事業セグメント別）

（単位：億円）	04/9期	03/9期	増減	主な増減理由
機械・宇宙航空	209	224	△ 15	欧州自動車事業会社（Kia Motors）の売却による減少（△15）、航空機関連の減益（△5）、船舶運航収入の増加（+7）、中南米、欧州の自動車事業会社（MMC Automotriz, S.A.、Subaru Motors）の増益（+10）
エネルギー・金属資源	164	164	0	プラント関連、原子燃料関連での減益（△10）、石炭、鉄鉱石、合金鉄等金属資源関連での増益（+13）
化学品・合成樹脂	224	217	+ 7	市況の高値安定推移によるメタノール製造・販売子会社（KMI）の増益（+10）、肥料事業での増益（+3）、樹脂成形品製造会社（第一化成）等の連結除外の影響による減少（△11）等
建設都市開発	51	72	△ 21	マンション販売における減益（△21）
木材	58	53	+ 5	上期前半の木材市況好調による改善（+2）、総合建材販売会社（サン建材）の増益（+2）
食料	68	66	+ 2	水産、穀物取引の取り扱い増加による増益
物資・リテール	74	70	+ 4	物資販売輸出入会社（双日GMC）のタイヤ輸出取引の増加による増益（+2）、ベトナムのチップ製造工場の本格稼動による増益（+1）
繊維	106	98	+ 8	繊維製品製造販売会社（第一紡績）の連結子会社化による増益（+11）
海外現地法人	128	137	△ 9	円高の影響、低採算取引からの撤退の影響による減益
その他	115	122	△ 7	IT関連事業会社（日商エレクトロニクス）の連結子会社化による増加（+55）があるも、鉄鋼製品事業譲渡、鉄鋼薄板等の加工・販売会社（スズヤス）等の連結除外の影響などにより減少
合計	1,197	1,223	△ 26	

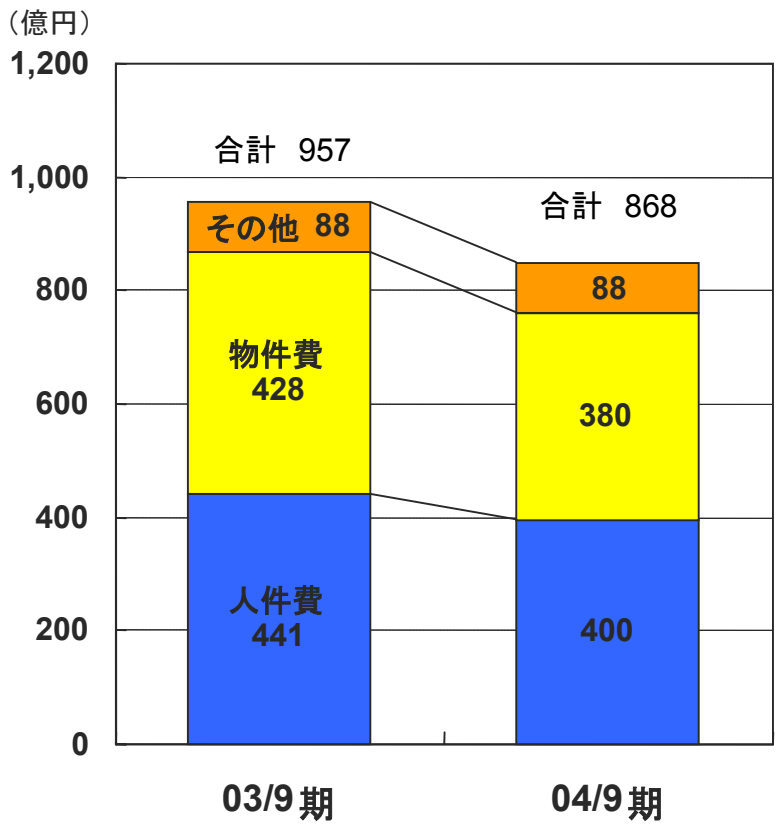
販売管理費

販売管理費　△　868億円　（前年同期比　+ 89億円 改善）

- 販売管理費改善の主な内訳
  - 人件費の減少　　+41 億円
  - 物件費の減少　　+48 億円

【減少要因】
  - 連結除外による影響の主なもの
    - Vernisbalc（旧Kia Motors）（+10）
    - スズヤス（+8）
    - 第一化成（+7）
    - 事業再構築（鉄鋼製品事業）（+16）
  - 海外現地法人統廃合による合理化（+25）
  - 退職給付費用減少（+24）

【増加要因】
  - 新規連結による影響の主なもの
    - 日商エレクトロニクス（△49）



営業外損益

営業外損益　△　71 億円　（前年同期比　+ 4億円改善 ）

- 主な増減要因　（単位：億円）

	04/9期	03/9期	増減	（主な増減要因）
金利収支	△ 160	△ 159	△ 1	資産圧縮等に伴う受取利息の減少（△37） 有利子負債の減少による支払利息の改善（+36）
受取配当金	15	21	△ 6	
金融収支計	△ 145	△ 138	△ 7	
持分法投資損益	61	19	+ 42	持分法損益増加 （メタルワン +25、Catherine Hill +3 等）
その他営業外損益	13	44	△ 31	金融商品関連収益の減少、 営業外為替差損益の改善等
営業外損益合計	△ 71	△ 75	+ 4	

特別損益

特別損益　△2,453億円　資産健全化処理に伴い、総額約2,500億円の特別損失を計上

- 主な内訳 （単位：億円）

		（主な内容）
- 特別利益		
有形固定資産等売却益	7	
投資有価証券等売却益	33	上場株式を中心とした資産処分による売却益
持分変動利益	10	情報産業関連等
特別利益合計	50	
- 特別損失		
有形固定資産等売却・除却損	△ 8	事務所移転による売却・除却損
投資有価証券売却損	△ 89	通信関連株式売却（△55）等
投資有価証券等評価損	△ 131	低採算の海外通信事業からの撤退（△19）、非上場株式の評価減等
関係会社整理・引当損等	△ 462	海外建設機械子会社撤退（△46）等
事業構造改善損	△ 1,813	海外石化製品事業会社撤退（△138）、中南米医療機撤退（△74）等
特別損失合計	△ 2,503	

2005年3月期通期決算見通し

（単位：億円）	**05/3期見通し**	04/3期実績	増減
売上高	**50,000**	58,617	△ 8,617
売上総利益	**2,500**	2,490	＋ 10
販売管理費	**△ 1,870**	△ 1,891	＋ 21
営業利益	**630**	599	＋ 31
営業外損益	**△ 130**	△ 114	△ 16
経常利益	**500**	485	＋ 15
特別損益	**△ 4,100**	△ 906	△ 3,194
税引前当期純利益	**△ 3,600**	△ 421	△ 3,179
当期純利益	**△ 3,800**	△ 336	△ 3,464

売上総利益見通し（事業セグメント別）

（単位：億円）	04/9期 実績	05/3期 見通し	進捗率	足元の状況	04/3期 実績
機械・宇宙航空	209	410	51%	海外自動車事業会社が好調に推移しており、下期も計画通りの進捗を見込む	482
エネルギー・金属資源	164	340	48%	鉄鉱石・合金鉄事業会社の連結子会社化等もあり堅調に推移。下期はプラント取引での改善を見込む	310
化学品・合成樹脂	224	425	53%	市況の高値安定を背景に、メタノール製造・販売会社が好調に推移するも、素材高の懸念もあり下期は減速を見込む	440
建設都市開発	51	160	32%	下期に引渡し予定の物件が集中しており、上期は低進捗にとどまるも、販売は堅調に推移しており、計画通りの進捗	174
木材	58	125	46%	上期後半の市況下落の影響があるも、市況はほぼ底を打っており、下期回復を見込む	118
食料	68	140	49%	水産・畜産物等、全体的に下期に収益が偏重する傾向にあり、計画通りの進捗	134
物資・リテール	74	150	49%	ベトナムチップ製造工場が計画通り稼動し、下期も順調に推移	142
繊維	106	250	42%	アパレル関係が好調に推移するも、猛暑、台風の影響により、主力商品である秋冬物が低調な滑り出し	213
海外現地法人	128	270	47%	下期に収益が偏重する傾向にあり、計画通りの進捗	278
その他	115	230	50%	計画通りの進捗	199
合計	1,197	2,500	48%		2,490

バランスシートの実績と計画

（単位：億円）	04/3末実績	**04/9末実績**		**05/3末計画**
現預金	4,357	**3,255**		**3,000**
営業資産	10,935	**10,178**		**8,950**
投融資	7,974	**5,934**		**6,350**
固定資産	7,504	**7,673**		**6,100**
資産合計	30,770	**27,040**		**24,400**
			＜御参考＞ 10/29増資（含むDES）実施後	
営業負債	7,680	**7,516**		**7,400**
有利子負債	19,928	**18,907**	**15,400**	**14,100**
負債計	27,608	**26,423**		**21,500**
株主資本	3,162	**617**	**4,200**	**2,900**
負債・株主資本合計	30,770	**27,040**		**24,400**
ネット有利子負債	15,571	**15,652**	**12,150**	**11,100**
ネットDER（倍）	4.9	**25.4**	**2.9**	**3.8**